

第10回ロボット介護機器開発パートナーシップ会合
日本ノーリフト協会の活動

施設を選ぶ基準になるノーリフト ～ロボット技術・ICTの必要性～

一般社団法人 日本ノーリフト協会
代表理事 保田 淳子



- ☆発表に出てくる**写真使用**については、各関係病院倫理委員会を通し、使用方法を対象者／後見人に説明し、書面にて同意を得ております。
なお、来場者の**写真撮影**、**録音**、**録画**などは、**ご遠慮**ください。
- ☆本日発表する内容に特記すべき**利益相反**はありません。

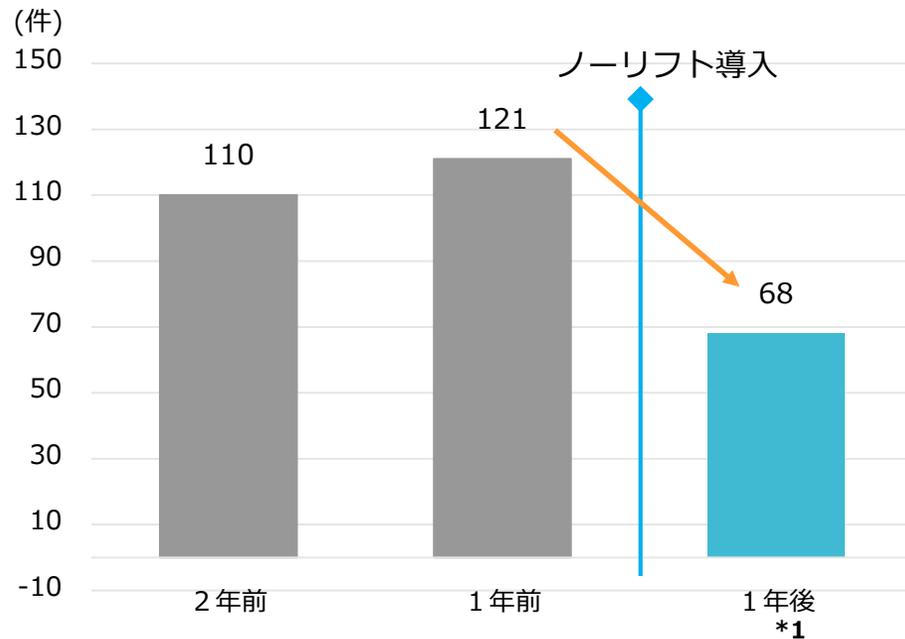




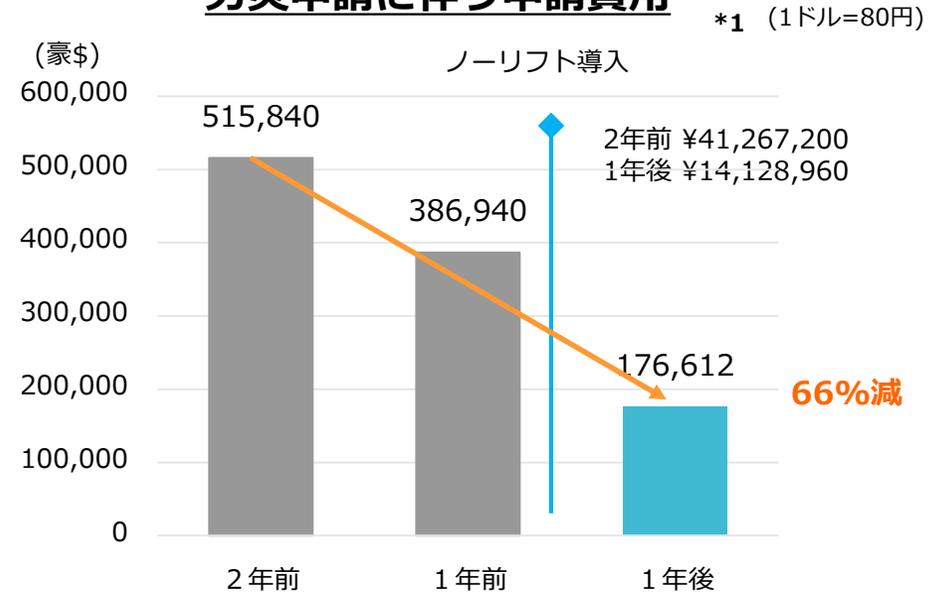
1.ノーリフトとは —持ちあげない看護・抱えあげない介護の**合言葉**—

ノーリフティングポリシーとは、1998年にオーストラリア看護連盟(ANF)ビクトリア支部が提言した「**医療や介護職における腰痛予防対策指針**」です。当時、オーストラリアでは看護師の身体疲労による腰痛訴え率が上がり、離職者が増えて深刻な看護師不足に陥るなど、看護師の腰痛が大きな問題を引き起こしていることが明らかになりました。その後、ビクトリア州政府主導によるノーリフトプログラム導入により**大きな成果**を挙げ、**オーストラリア全土に導入**されるきっかけとなりました。

人力による患者移乗/移動に関する労災申請数



労災申請に伴う申請費用



*1 Victorian Government Department of Human Services, October 2002

ノーリフトで活用する福祉用具 リフト



動くことが難しくなってきた場合でも、寝かせきりでなくリフトで移乗



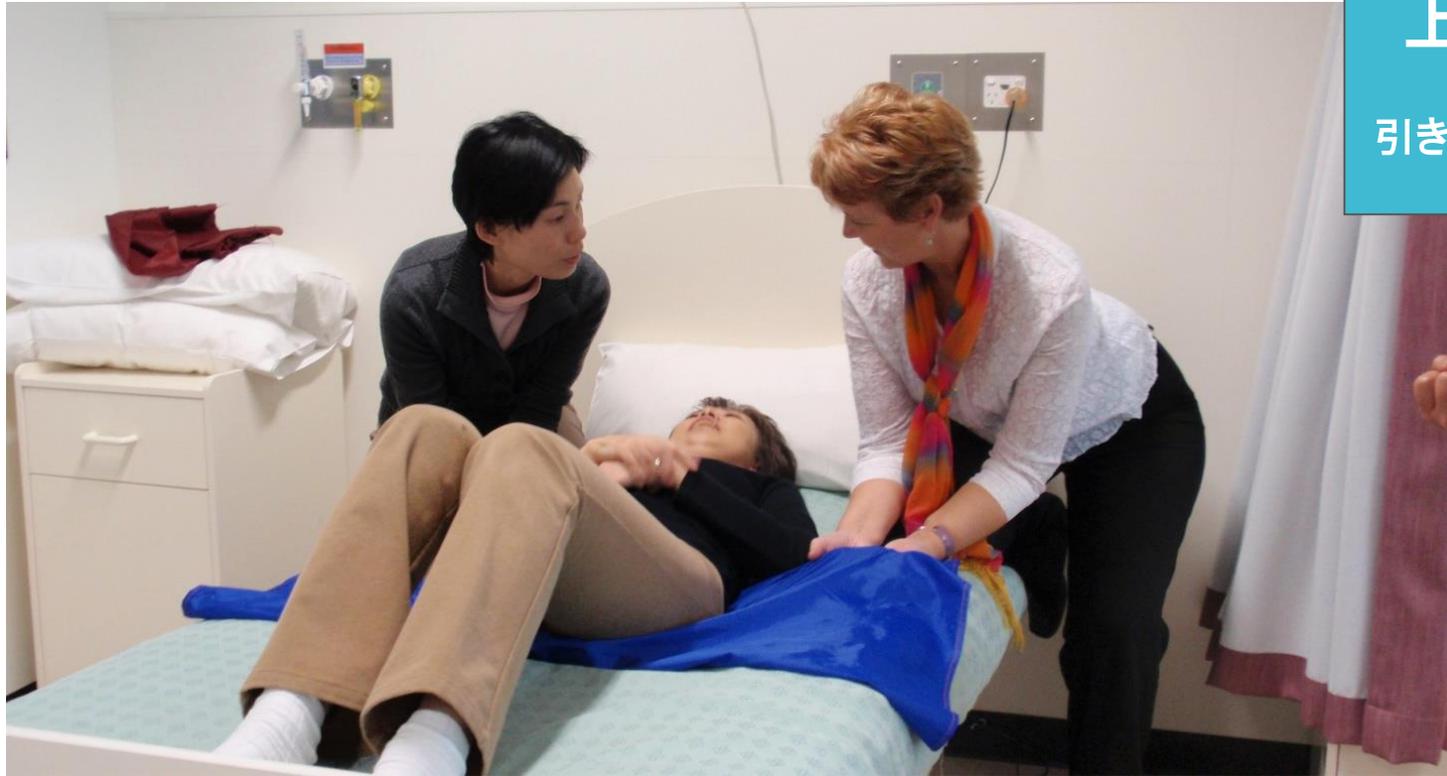
ノーリフトで活用する福祉用具 スタンディングマシーン



ベッドで座れる・少し立てそうな場合も、無理に介助者が持ち上げず**スタンディングマシーンにて起立の支援**



ノーリフトで活用する福祉用具 スライディングシート



上下移動や体位変換
引きずらないので褥瘡予防にもなる

介護度や自立度のアセスメントを実施し、必要な用具を活用する

ノーリフティングポリシー導入結果



2002年 オーストラリアビクトリア州政府

ケア提供を受ける側の利益

皮膚の損傷がなくなる、移乗時の不快軽減、

転倒や転落の危険、寝たきりによる合併症の予防

スタッフの利益

痛みや身体負担が軽減する、ケア提供がはっきり掲示される

政府や経営者側の利点

労災申請や治療費削減、人材不足の解消、統一したケア提供

口コミによる求人や利用者の増加 インシデントの発見が容易になる



日本ノーリフト協会の成り立ちと今後

1998年 — Australian Nursing Federation ノーリフティングポリシー

看護や介護職の腰痛予防対策として

「押さない・引かない・持ち上げない・ねじらない・運ばない」を宣言



2009年 — **日本ノーリフト協会 設立** ノーリフティングポリシーを紹介
「日豪国際フォーラム」大会長 埜田和史 先生 (滋賀医科大学)

2012年 — 6000人の看護や介護職の腰痛調査を実施

2013年 — ノーリフトケアコーディネーター **認定プログラム検証**
文科省RISTEX 東京大学「経験価値の見える化を用いた共創的
技能e-learningサービスの研究と実証研究」

2016年 — 日本版ノーリフトケアコーディネータ養成講座開始
全国にノーリフトケアコミュニティを！

2017年 — 海外 (特にアジア圏) にもノーリフトケアを広げよう
ノーリフトケアトレーニングセンターの開設準備



1. キーパーソンの育成
ノーリフトケアコーディネーター養成講座
2. 地域を支える支部の設立
3. 国境をこえての活動

課題：情報の整理と活用

組織図



日本ノーリフト協会は、**ノーリフトの教育を通して**医療及び福祉施設での**腰痛予防マネジメントシステム**の普及を図ることにより、医療及び介護関係者に対し、職場において自らの健康を守ることや安全な作業環境づくりを行うことが、よりよいケア提供につながっていくことを実感できるようにサポートを行う**労働安全衛生マネジメントを根づかせ、国民の健康及び福祉の向上に寄与することを目的**として2009年に発足、2010年に一般社団法人として登記されました。

役員

代表理事

保田 淳子 看護師

理事

北澤 彰浩	医師	佐久総合病院
北原 照代	医師	滋賀医科大学
福田 裕子	看護師	訪問看護ステーション管理者
笹本喜美枝	看護師	千葉大学病院
眞藤英恵	理学療法士	かんでんライフサポート(株)
下元 佳子	理学療法士	うえるぱ高知代表
和田忠志	医師	いらはら診療所

特別顧問

埜田 和史 医師 滋賀医科大学

2009年 第1回 日豪国際フォーラム



オーストラリアのノーリフト



オーストラリア版 3日間研修 日本にて2009年～2012年実施も**日本では通用しない**

ベーシックコース 1日	ノーリフトを知る
アドバンスコース 1日目	職場に変化を起こすきっかけをつくることができる
アドバンスコース 2日目	ノーリフトケアの必要性を説明でき、実践できる

施設に戻っても用具がないため 継続できない・忘れてしまう

福祉用具やRTを使ってケアを行おう！と言ってみても・・・



場所がない・リフトのスペースがない

時間がない・人数が足りない・非人間的である

お金がない・値段が高い

活用方法が理解できない

手技・セッティングが面倒

家族が必要性を感じない

機械が受け入れられない

利用者が安全性が信用できない

本人の抵抗や不安

施設における取り組み前後の比較と結果



2014年7月撮影



2014年9月撮影



ノーリフト
実施

2015年3月撮影



力任せに介助していたら、2か月で介助している方向に身体が変形した



人力による力任せな持ち上げ介助



ノーリフトケア：端座位サポート



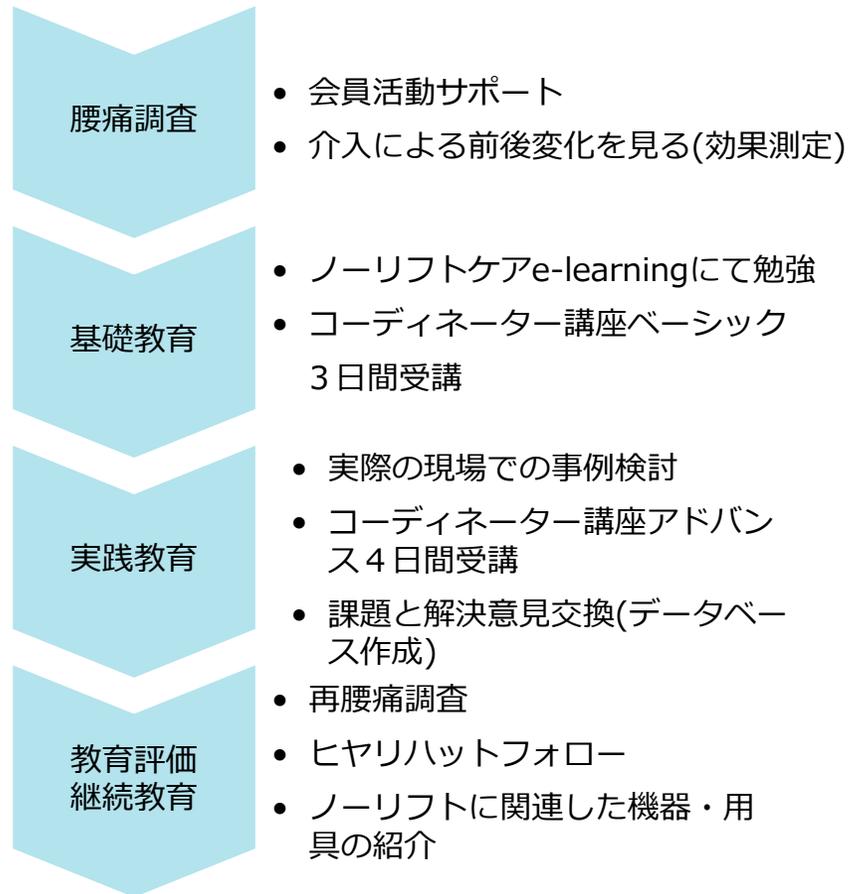
電動ベッドを活用して面で利用者様の体を支える

2013年～2106年 認定プログラム編成：東京大学 RISTEXプロジェクト



腰痛予防対策の取り組みを科学的に検討するため、日本ノーリフト協会は、JST RISTEX 問題解決型サービス科学研究開発プログラム(東京大学大学院工学系研究科教授・浅間一先生のプロジェクト)に参加致しました。

この目的は、ケア技術の教育方法を科学的にとらえ、どのようなポイントで現場にノーリフトケアを教育していくことがよいのか検討・調査し、システム開発につなげようというものです。



2016年1月31日に初版発行。

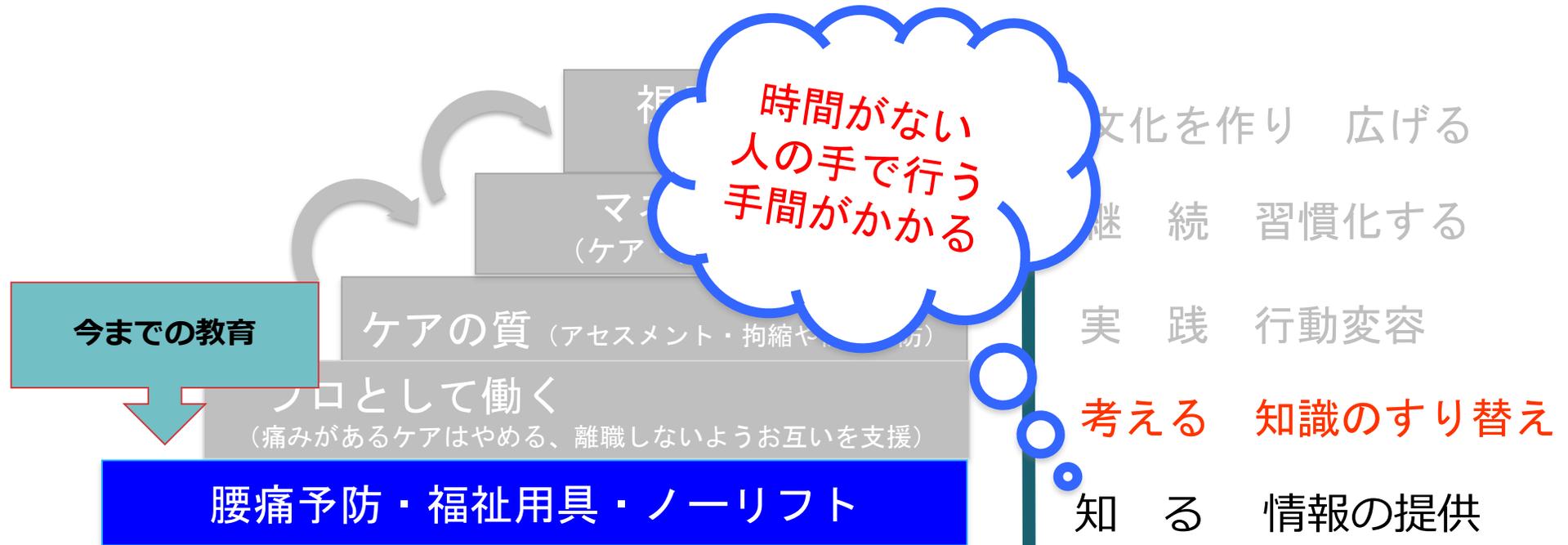
JST RISTEX 問題解決型サービス科学研究開発プログラム「経験価値の見える化を用いた共創的スキルeラーニングサービスの研究と実証」の研究成果をもとに作成。



日本の腰痛予防対策教育



知ったけど・・・聞いたけど・・・腰痛は減らない。



腰痛予防対策が腰痛ベルトを使うなど**個人の対処療法でとどまっていたり**、知識を変える教育が充分でないことや現場の福祉用具に対する疑問を解決する教育がなく、福祉用具を活用できない状況になっていた。

日本版ノーリフトの教育ポイント



～現場を変える小さな成功体験を目指し～



福祉用具や機器の使い方を教えるのではなく知識のすり替えをサポートする



日本版ノーリフトケアコーディネーター養成講座

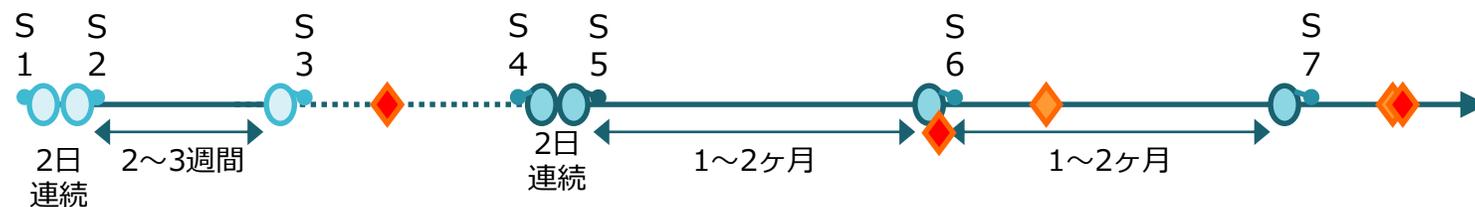
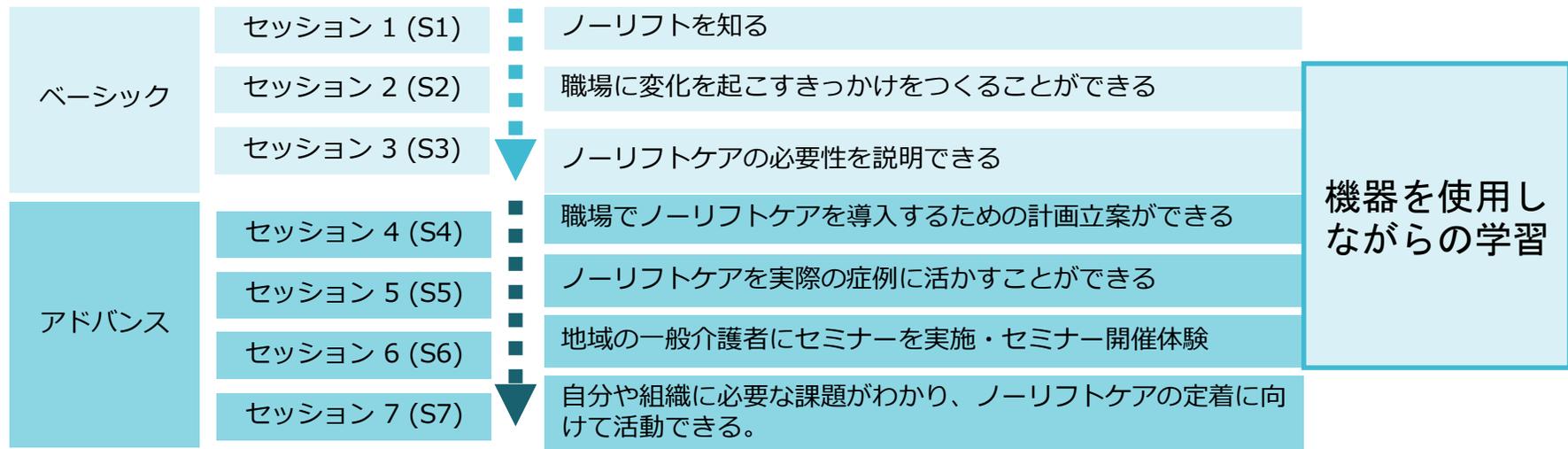
認定コース

No Lift Care Coordinator: NLCC 養成講座

到達目標

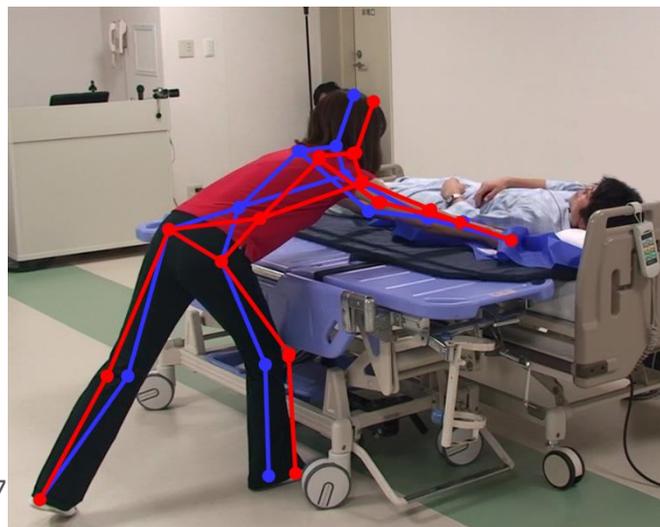
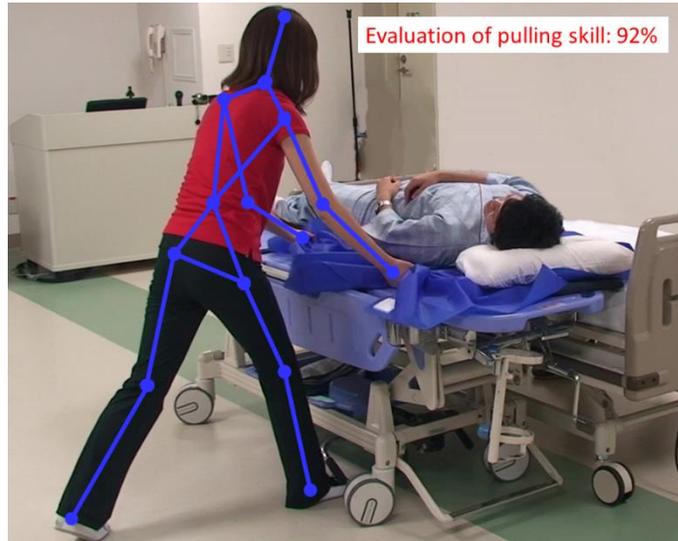
- 受講者が腰痛予防対策とケアの質をベースとしたノーリフトケアの知識と技術を理解し、効果的かつ安全に患者／利用者の移乗介助ができるようになること。
- 講習を受けていない人に対し、ノーリフトケアを指導し、必要があれば今までの習慣や文化を変える(行動変容)働きかけができるようになること。

NLCC 養成講座の概要



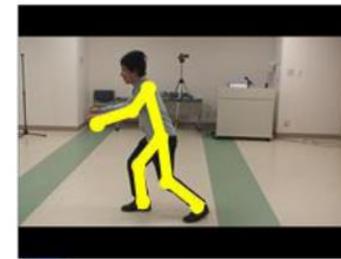
◆ 講座開催地域で市民に向けた無料介護相談会や無料介護講習会

スライディングシートの活用 + 腰痛予防対策指導法



Expert

Non-expert



オノマトペではない伝達指導者養成 → 2018年NLCCDの認定を開始



「優しくさわってね。」「そっと」等
人の理解によって実施方法が変わって
しまう伝達方法であることが発覚



言葉の明確化と動作の見える化の実施





ICT・デジタルの活用例 (LMS: Learning Management System)

ノーリフトケアをオンラインで学習するためのLMS(学習管理システム)を開発中です。さらに、(ノーリフトケアの教育に必要な)介護機器の正しい使い方などをeラーニングに組み込むことで、教育と合わせた機器の普及を目指します。

eラーニング

Chapter 3 ③-2

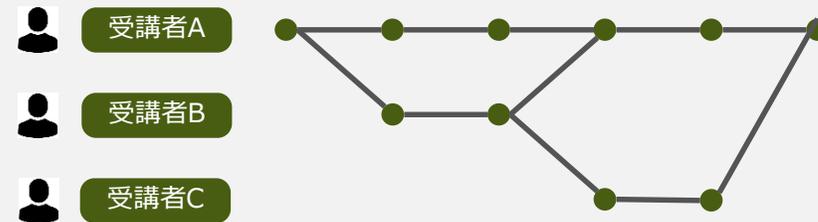
身体のスイングが一直線
腕が90°
足の幅、裾底面を広く取る

シートを引く際には、ノーリフトの姿勢を特に気をつけてください。手首を固定しないと腱鞘炎等のリスクも高まります。

< Previous Next >

ラーニングパス

In Development



受講者の進捗管理

受講者A

Chapter 1	100%
Chapter 2	76%
Chapter 3	0%



ノーリフトケアの教育と合わせて、**介護機器の正しい使い方をeラーニングで提供**



加藤大臣 ノーリフトケア導入施設への視察

～現場を変える小さな成功体験を目指し～



2016年3月5日 鹿児島に視察

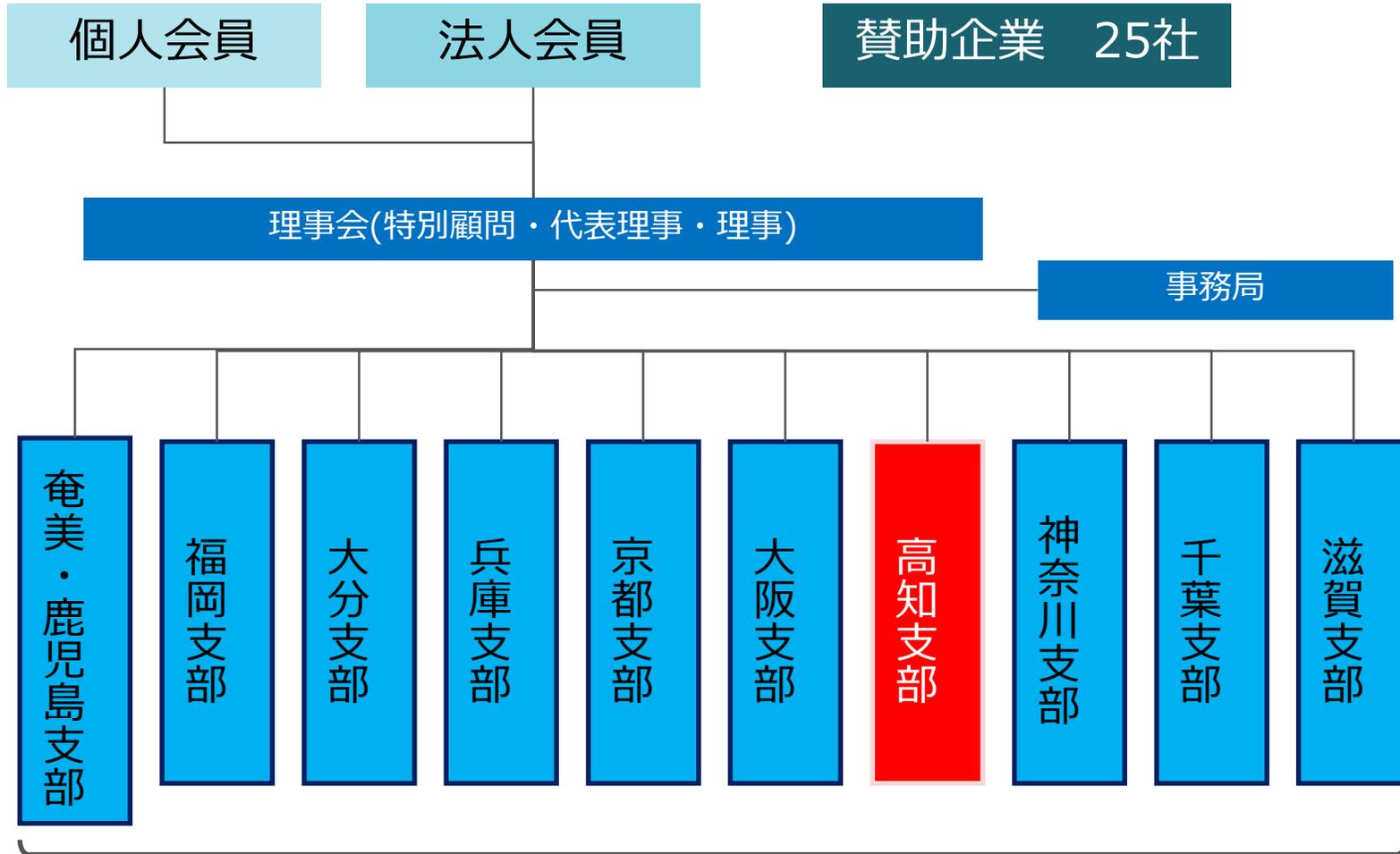


5月 次世代型介護技術として ノーリフティングの記載





組織図



- 連携機関・団体
- 東京大学 滋賀医科大学
 - 聖路加国際大学
 - 神戸大学
 - 産業技術総合研究所
 - 日本看護協会
 - 日本理学療法士協会
 - 日本作業療法士協会
 - 神戸市 横浜市 三浦市
 - 神奈川県 高知県等

2017年度に10支部を設立予定

2018年度以降、名古屋、山形、新潟、富山、静岡、三重、熊本、愛媛、岡山、長野なども支部を設立予定

協会活動



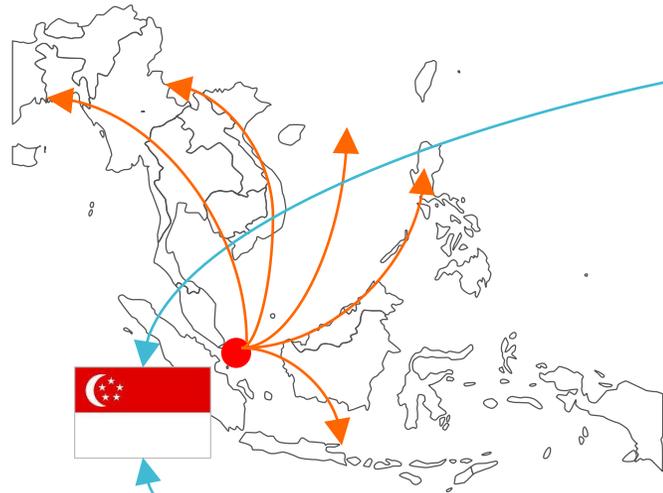
1. キーパーソンの育成
ノーリフトケアコーディネーター養成講座
2. 地域を支える支部の設立
3. 国境をこえての活動

課題：情報の整理と活用

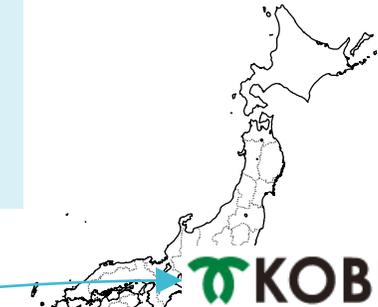
NLC Training Lab. 設立拠点



今後、アジア諸国においても少子高齢化が加速する傾向にあり、介護福祉の分野における人材不足は日本だけが直面する問題ではなくなります。**アジアにおける介護人材の争奪戦を避ける**ためには、相互に助け合いながら**介護人材の育成・活用における共存を図る**ことが重要であると考えられます。



- 2017年、シンガポールの公営介護施設の運営組織とのコラボレーションをスタート。
- シンガポール政府(保険省: MOH)からの支援を得ながら、NLC Training Lab.の**ASEAN地域本部**の設立を目指す。



- 2017年、**ラボ**の設立計画を実行に移す。
- ラボ支部: 2017年、**国内10箇所にNLAの支部を設立予定**。
各支部の拠点をベースに、ノーリフト導入済介護施設の施設内スペースを活用したラボの**設立を順次展開する**。
- 国内・海外を含め、**人材育成・人材確保を行う拠点**として活動する。
- **海外の政府機関・介護施設等との連携**を進め、NLC Training Lab.の研修プログラムとパッケージで**介護ロボット・介護機器の販路開拓を支援する**。



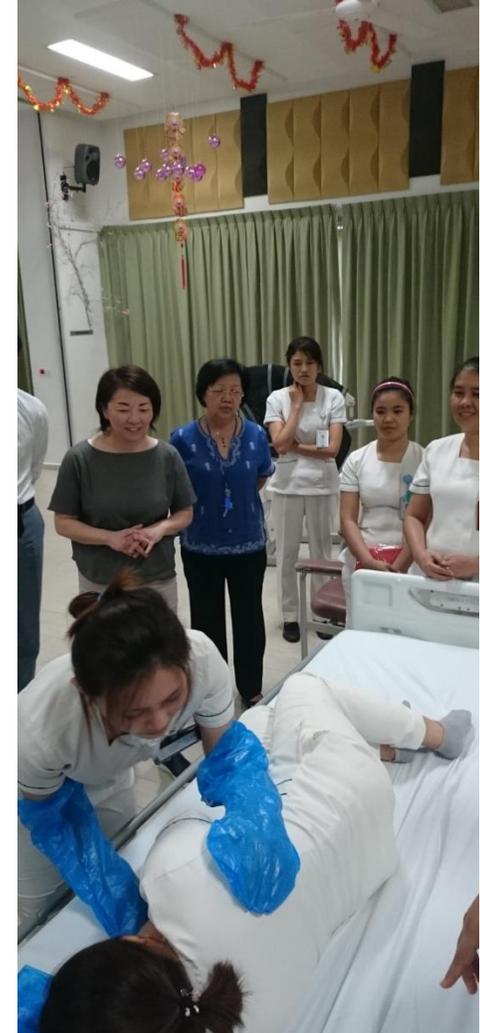
- 福祉介護先進国であり、ノーリフトケア・理念教育が根付いたビクトリア州から**目指すべきケア**を学ぶ。
- シンガポールを起点としたASEANへの展開に、豪州の政府機関・施設関係者からの支援を仰ぎ、**ビジネス機会を共創する**。



シンガポール介護施設視察・ノーリフトケア研修

2017年2月、シンガポールの公営介護施設を訪問し、施設の視察、ノーリフトケアの講習・研修を行いました。高齢化が進むシンガポールも介護人材不足が深刻化しており、研修後はノーリフトケアへの関心が高まっています。

※2017年8月24日、2018年2月と5月に再訪問、



オーストラリア訪日交流会 in KOBE

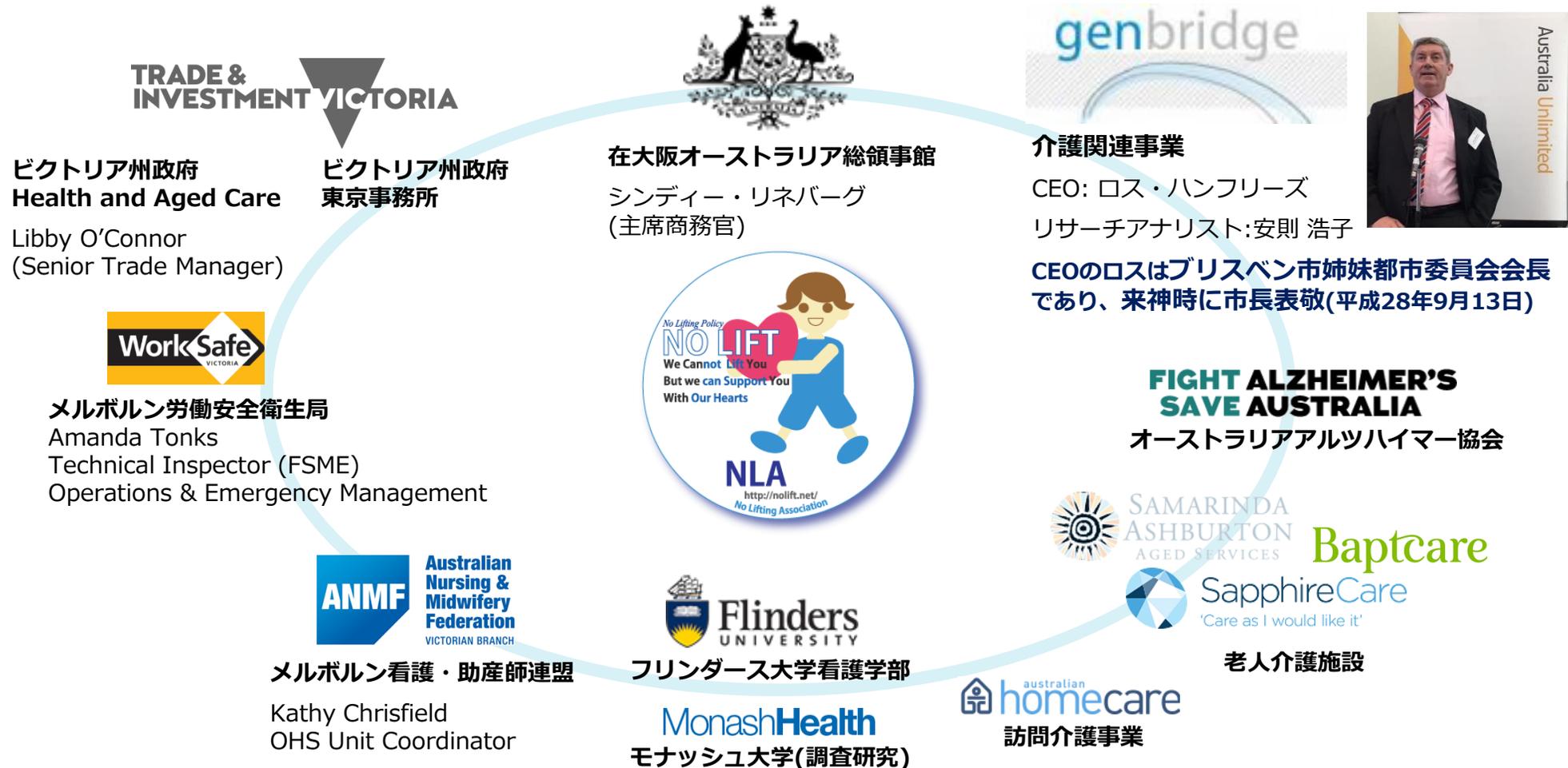
2016年11月、豪州の介護関連企業や施設設計の関係者が来日し、神戸市にてビクトリア州政府・ブリスベン市協賛の豪日フォーラムを開催致しました。2009年の日豪フォーラム開催から、多彩な交流で親交を深めてきました。



メルボルン政府・ヘルスケア関連組織との交流



メルボルン政府を中心に、介護・看護関連の組織・協会、教育機関、介護関連事業者とのネットワークが広がっています。現在、**日本人向けの介護施設設立・ノーリフト研修センターの設置**など具体的な事案が進んでいます。また、**質の高いケアマネジメントを実現するオーストラリアからの学び**は多く、日本国内及び東南アジアへの**介護事業展開の助力**になることが期待されます。

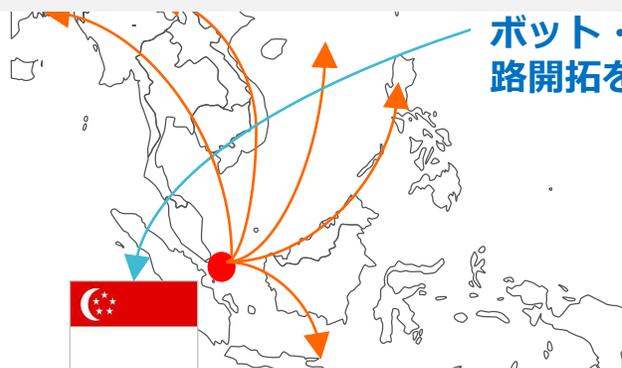




ノーリフトケアトレーニングセンター 設立拠点

ノーリフトケアの研修プログラムを活用し、

- 1) 不足する介護人材の持続的な教育・交流による人財育成
- 2) プログラムを支える介護ロボット・介護機器の海外進出支援



ボット・介護機器の販路開拓を支援する。

シンガポール政府(保険省: MOH)からの支援を得ながら、NLC Training Lab.の**ASEAN地域本部**を設立。

- ノーリフトの共通プログラムによる教育を行い、**不足する介護人材の交流・育成**を目指す。
- 将来的には、シンガポールと連携しながらASEANへの展開を行う。



国内・海外を含め、**人材育成・人材確保**を行う拠点とする。

- 介護施設への研修提供
- セミナーやフォーラムの視聴
- 意見交換会の開催
- 地域への無料介護相談や研修
- 英語での研修が参加できる
- 海外との対策や意見交換が行える



福祉介護先進国であり、ノーリフトケア・理念教育が根付いたビクトリア州から**目指すべきケア**を学ぶ

だれにとってもよい介護を考える + ロボットテクノロジー

施設や病院
働く人

患者・利用者

福祉機器の
使い方や選び方



ノーリフトは 1つのツール

～日本が発信する新しいケアやRT～





お問い合わせ noliftcare@gmail.com

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

日本ノーリフト協会ホームページ
<http://www.nolift.jp>



私達は、あなたを持ち上げられません。
しかし、私たちは心もってあなたのサポートをします。